

第一節 迷いを深める前に

考え方の基軸に神の教えを据えて

希望の光みちが通っている人は、いつも心が穏やかです。なぜ穏やかでいられるかといえば、自分の身の丈に合った生き方を神から学び、器からこぼれた生き方をしないように、平素から心の備えができているからです。

神が示される真理に沿った考え方で生活していると、「器からこぼれているから不満になった」「現状を受け止めてゆとりを欠かないように」「今は我慢しよう」「今回は諦めよう」などと、自分自身の心を冷静に見詰めて対応することができます。

それがなぜ必要かといえば、人間には自分の考えを基準とした感情があるからです。さまざまな環境変化の中で、迷い、悩む原因には、自らの実体から起こる感情の動きがあります。物の考え方の基軸に真理がないと、過分欲にのまれ、的確な判断ができなくなります。

こうした悩みの基となる自分自身の内面に気付かないうちには、当然修正することもかなわ

ず、「このようにはずではなかった」と、後悔するような結果を招いてしまいます。悩みの原因を外に見つけるのではなく、自分の心の動きに問題があるという意識を持つことが大切です。

例えば、家を建てるにしても、自然の中で生活している以上、いつ災害が起きても不思議ではないと、考慮に入れるべきです。崖の上に家を建てたり、風光明媚めいびな海岸沿いに住まいを持つたりするのには、災害の大きなリスクもあるという認識が不可欠といえるでしょう。

この心の備えがなくては、後々「どうしてこのようなことに…」と、嘆き、悲しみ、喪失感が引き出されなくても限りません。希望の光みちとは、自分の運命に重なった生き方を求めて歩む道です。希望の光みちを通すために、神の教えを学び、日々の心の動きを正していく必要性があるのです。

早い段階で修正すべき実体に気付く

教えを深く学んでいくと、悩みを生み出す自分の心の動きを冷静に捉えることができます。人の言葉や周りの情報に頼れば、かえって問題を深めてしまうこともあります。むやみに迷いを広げることなく、なるべく早い段階で、修正すべき実体に気付き、自ら実行に努めることです。

例えば、何げない相手の言葉に過敏になっているときには、「細かいことが気になる性格を